

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日： 2023年 3月 31日

<p>テーマ名</p>	<p>ITコーディネータ上位資格制度の研究ver2</p>	
<p>届出組織等名称</p>	<p>特定非営利活動法人 ITC中部</p>	
<p>成果物公開URL</p>	<p>https://www.itc-chubu.jp/</p>	
<p>当活動代表者 及び担当者連絡先</p>	<p>(代表者氏名) 副理事長 水口和美 電話番号: 052-0871-3343 e-mail: miz@aruinc.jp</p>	<p>(担当者氏名) 安藤祐 電話番号: 090-5031-8192 e-mail: yuando56@gmail.com</p>
<p>研究・調査 成果概要</p>	<p>【背景】 ITCの経験やスキルが曖昧のため、お客様はITCに対する正当な評価ができない。ITCは本来経験と一定のスキルをもってお客様支援すべきであるが、多くのITCはそのどちらも満たしていないものもある。そのため、ITCを語るだけで多くのITCは実際の活動に至っていない。しかし、本業とする独立ITCは常にお客様と向き合って活動しなくてはならず正当な評価とその証明が必要である。また、他資格に比べその認知度や実力が認められていない。少なくとも現状の民間資格の難易度「普通」から「難関」のレベルに引き上げる必要がある。そして社会的信用を強固にして、国家資格認定を取得に結びつける。また、ITC試験に合格してケース研修を終了すると、特に企業内ITCは、その後の目標を失いがちとなりスキルアップをできない場合があり、より上位のITC資格の取得を目標とすることによってITCとしての能力向上に向けてさらに研鑽することができる。</p> <p>【調査・成果】 現場実習の検討・実践評価を行う。この実習においてケース研修にて学習した手順・まとめ方・報告の一連を現場実習後に提出されるIT経営推進報告書またはDX推進報告書で評価する。現場実習は、実際の企業にコンサル実習の実施の場をお借りする。1名のITCが3社の実習を行う想定で、1社当たり5日間、3社で合計15日間とし、本格的なコンサル実践力を習得できるように構成する。 ・実習の内容検討、実習先での進め方・観察動作、指導者の指導方法、報告の内容・仕方、報告書の評価基準の検討(これらを実践で検証する、実際に5名チームにより3社のコンサル15日間を実践する) 成果としてOJTの標準化によるITCの実践力向上のスキームが確立できた。また、その実践により現状ITCの実践力のバラツキが確認でき、ケース研修のインストラクションのレベルを統一、フォローアップの仕組みを整備する必要がある。</p>	
<p>成果物</p>	<p>ITコーディネータ上位資格制度の研究ver2【1式】 ・上位資格研究テーマ報告_20230331 ・【ひな形】DXレポート(ppt入力用フォームVer2.1) ・【ひな形】DXレポート(word入力用フォームVer2.1.1) ・上級ITC)DX経営診断実習テキスト2023年版</p>	

* 青字は事務局で記入します。

<p>事務局受付日</p>	<p>2023/3/31</p>
<p>案件番号</p>	<p>S22007</p>